「ジェンダー視点の避難所レイアウト・ワークショップによる検討」映像資料

○ 災害時のジェンダー視点による避難所開設・運営の重要性

- 地震、豪雨、台風等の災害が近年ますます増加しているなか、災害により自宅で生活できなくなった方々に安全・安心な「生活の場」として、避難所を提供することは、被災者支援の第一歩であり、極めて重要で必要不可欠です。
- 避難所は多様な違いを持った複数の他人同士が一時的に生活を共にする場です。しかしながら、そうしたイメージを共有しないまま開設してしまい、炊事や洗濯、掃除等、避難所内の生活に関する役割が性別で固定されるといったことや、性的暴行、災害弱者と言われる方々への配慮に欠けてしまいがちです。
- 埼玉県では、このような過去の災害で生じた課題などを踏まえ、安全で安心な避難所環境を県民に提供するため、「ジェンダー視点による避難所開設・運営の充実強化のための標準手引き」を作成しました。
- 本手引きでは、ジェンダー視点による避難所開設・運営の基本的な考え方として、日頃から女性が参加しやすい活動環境づくりや、女性リーダーの育成を進めることなどの５項目について示しており、その内容の実践が重要となります。
- また、既存の「避難所運営マニュアル」を見直すための方法や、「ジェンダー視点」を取り入れるに当たり考慮すべき事項を集め、「チェックリスト」として取りまとめています。
- この映像資料は、手引きの副教材として、安全・安心な「生活の場」として避難所を提供するために重要なポイントとなる避難所レイアウトの事前検討に着目して、その重要性や具体的な検討手順をわかりやすく伝えるために、作成しました。

○ 避難所レイアウト検討の重要性

- 避難所となる施設は、普段はそれぞれの目的のために利用されており、災害が発生してはじめて、「避難所」となります。
- また災害時には、避難所運営に関わる関係者含め、誰もが被災者となる可能性があり、切迫した状況に陥ることが考えられます。
- そのため、事前に関係者が、ジェンダー視点での配慮を行いながら、あらかじめ避難所となる施設をどのように使うのか、レイアウトを検討し、施設管理者、避難所運営主体がともに共通認識を持って災害に備えておくことが極めて重要です。
- 一度 災害が発生して避難所が開設され、利用されると、その後 ニーズに応じてレイアウトを変えていくことは難しい場合もあります。
- そのため 平時から検討を行い、レイアウトを考えておくことで、例えば開設時から通路を設置しておくこと、そうすると スムーズな変更が可能になります。
- また検討の場を持つということはお互いの関係性の構築にもつながり 大切なことです。
- レイアウトの検討にあたっては、個別の施設ごとに、避難所となる施設の規模、災害の種類、避難所開設の期間、短期・長期を考慮し、複数種類のレイアウトを想定します。

○ 避難所レイアウト検討の流れ

- 避難所レイアウトの検討の流れをみていきましょう。ここでは、ワークショップ形式を活用した検討をご紹介します。
- 避難所のレイアウト検討については、以下のようなステップが必要です。ここでは、それぞれのステップについて実際の実施例をお見せしながらご紹介します。
- はじめに、検討を行う避難所の基礎情報などを整理しておきます。
- 次に、災害時に避難所運営に携わることが想定される関係団体が集まり、ワークショップの開催に向け、開催日程や、リーダー層を含む参加対象者を検討する事前打ち合わせを行います。この際、男性・女性や年齢のバランスに配慮して検討・参加の声がけを行い、多様な人に参加してもらえるようにしましょう。
- また、避難所として利用可能なスペースを施設管理者に確認することが必要です。
- ワークショップ当日は施設の状況の確認をする時間がとれないため、当日円滑に進行するために、行政担当者と避難所リーダーなどで、３０分から１時間程度の下見を行います。
- 下見では、図面をみながら、レイアウトを検討するにあたって、避難所で必要とされる機能・スペースの確保に支障がないか、手引き「避難所で確保すべき機能・スペースの考え方」にまとめている「適した場所」を照らし合わせて確認します。
- 特に人の移動や物資の移動に関する動線、電源・Wi-Fi などのライフラインや通信環境、さらにはエアコン設置の有無、施錠可否、段差の有無などを確認します。
- ワークショップでは、避難所で確保すべき機能・スペースの配置の検討を図面で進めます。
- そのため、説明資料と図面を、模造紙程度の大きさに拡大コピーしたものを用意します。
- また、避難所で確保すべき機能・スペースを一覧表にしておくと、当日の運営がスムーズになります。
- ワークショップは全体で９０分程度を想定し、次のように進行します。
- まず趣旨説明で避難所の開設・運営の概要について説明します。
- 次に、手引きを活用して、避難所に必要な機能・スペースについて確認して避難所イメージを共有します。その際、ジェンダー視点で配慮する内容についても共有しましょう。
- 続いて用意された図面上で、避難所で確保すべき機能・スペースの配置を検討していきます。
- まず、動線の検討・確認から行います。
- 下見の内容を共有しながら、通行者や一般車両、搬入車両の動線を確認します。特に物資保管スペースは物資の搬入の動線の確保や一定の面積が必要なため、優先的に検討します。
- 続いて、検討した動線をもとにしながら、屋内スペースのうち、居住・物資に関するスペースの割り当てを確認します。
- １部屋１スペースを前提とする必要はなく、これらのスペースについて、間仕切りやテント等を活用してジェンダー視点を踏まえて男女別に施設を分けるなど、プライバシーや安全・安心に配慮しましょう。
- 次に屋内スペースのうち、受付、本部、情報掲示板、団らんコーナー、キッズコーナー、救護室等の運営に関するスペース等を割り当てます。
- さらに、以下のような屋外に設置するものについても機能を割り当てます。
- 各スペースに適した場所などの留意事項については、手引き「避難所で確保すべき機能・スペース

の考え方」にまとめている「適した場所」で確認します。

- レイアウトに沿って実際に設営した避難所のイメージをお示しします。例えば体育館のスペースの割り当てではこういった設営例が考えられます。居住スペースを大きく確保しつつ、本部や情報掲示板も体育館内に設置しています。
- 最後にワークショップの成果を発表します。残された課題がないか、質疑などを通して参加者で確認して、レイアウト案に反映します。
- 内閣府が作成している「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」では部屋札用ピクトグラムを掲載しています。ワークショップで実際に掲示した様子を確認するなど、ご活用ください。
- ワークショップ内で時間があれば、施設を改めて確認して、検討したレイアウトに課題がないか、確認しましょう。ワークショップ内では時間確保が難しければ行政担当者と避難所リーダーが後日確認します。
- ワークショップで出された課題や対応策などのアイデアを取りまとめ、避難所運営マニュアル等に反映することも効果的です。
- ワークショップ等を通じて作成したレイアウトは、災害の種類、避難所開設の期間、短期・長期別に整理し、避難所運営に関わるすべての方が知っておくことが必要です。そのため、説明会などで積極的に周知しましょう。
- また、作成したレイアウトを用いた避難所開設・運営訓練を通じて、レイアウトの検証をおこなうこと、避難所として利用可能なスペースを変更すること、そして、人事異動による担当者の交代時には改めて共有することも必要です。

○ 日頃から取り組むべきこと

- 適切に避難所を開設し 運営するためにはまず避難所運営やジェンダー視点のイメージを持っていることが重要です。
- そのためには 平時からジェンダー視点を踏まえた避難所レイアウトについて考える検討の場を設けると良いでしょう。
- 併せて避難所運営訓練などを通じてできること できないことに気づいていただき対策を検討する応用力を身に付けていただくことも大切です。
- こうした検討の場や訓練を通じて 多様な人材を育成していきましょう。
- 地域内で関係者間の信頼関係を構築することや女性参画の体制作り 災害時の初動体制の検討についても日ごろから取り組んでおくと良いでしょう。
- 安全・安心な「生活の場」として避難所を提供するためには、日常的に関係者や関係機関と連携しておくことが重要です。女性が日常的かつ継続的に参加できる環境づくりを意識しましょう。
- また、今回ご紹介したワークショップでは、学校の協力のもと、体育館以外の校舎施設を活用してレイアウトを検討しています。実際に災害が起きると体育館だけで十分な機能を提供することが難しいのが実情です。このため、日頃から施設管理者と災害時に利用できるスペースについて共通認識を構築しておくことも極めて重要です。
- この映像資料を活用して、ワークショップによる検討や訓練などを行い、いざ災害が起きても適切に避難所を開設・運営できるよう、準備を進めておきましょう。